



# 私の なんとか しなきゃ!

Vol. 29

## PROFILE

1972年東京都出身。大学卒業後、TOKYO FMIに入社。8年間勤務した後、休職して青年海外協力隊に参加。ミクロネシア連邦で環境教育に携わる。帰国後は復職し、環境インタビュー番組「Hummingbird」などを担当。2010年3月に退社。現在、フリーアナウンサー兼環境アクティビストとして活動中。2011年4～5月には、東日本大震災の復興支援緊急ボランティアとして、宮城県岩沼市の流出物管理センターで活動。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

写真：ノーベル平和賞を受賞したケニアの環境保護活動家ワンガリ・マタイさんと



人生はつながっている

フリーアナウンサー 高柳 恭子

TAKAYANAGI Kyoko

家族がマスコミ関係にいたこともあり、小さいころから報道に興味がありました。阪神淡路大震災のニュースを見てからは、私も現場で真実を伝えたいという思いが強まり、この世界に飛び込みました。

大きな転機となったのは、入社2年目。環境にかかわる活動をしている人を取材し、5分間の番組に編集するという仕事を任せられました。当時は、マスコミで環境が取り上げられることも少なく、私もまったくの素人。でも、熱意ある方々との出会いを通じて、人間の原点である環境を守ることが、どれだけ大切で意味のあることか気がきました。

そんなラジオの仕事はとても楽しかったのですが、一方で、もっと現場に出たいという気持ちが大きくなっていきました。人の顔を見ながら、環境について伝えたい。そこでたどり着いたのが青年海外協力隊。中学生の時、通学中に中吊り広告を見てからずっと気になっていたんです。退職して協力隊に挑戦しよう。その決意を上司に話すと、

「せっかくのチャンスなんだから辞めないでがんばってこい」と背中を押され、現職参加制度※での参加を決めました。

環境教育の隊員として派遣されたのは、太平洋に浮かぶミクロネシア連邦のコスラエ島。最初の数ヶ月は、現地語もうまく話せず、派遣先に「与えられた」仕事もありませんでした。会社を休職させてもらって来ているわけですから、途中で帰るわけにはいかない。何とか自分のできることを見付けなければと、島の人たちの生活スタイルを観察していました。そこで気になったのが“ごみ”。島にはごみ処理場もなく、たまったごみはすべて海の中にポイ捨て。それが海水の汚染につながり、どんどん魚が捕れなくなっていました。

それからは無我夢中でした。目標はごみ処理場を作ること。各家庭を回ってはごみを集め、どんな種類のものかどれくらい出ているかを調べるところから始めました。最初は周りの人たちにも「別に今は困っていないし、海に捨てても問題ないじゃない」と言われる始末。

でも、ごみまみれになって黙々と作業している私に興味を持ってくれたのでしょうか。次第に声を掛けてくれる人が増えてきて、任期が終了する直前には、やっごみ処理場を建設する予算を確保することができました。

帰国したら日本は環境ブームになっていて、ラジオで環境番組を担当させてもらうことになりました。アナウンサー、環境、国際協力。私が人生で追及したいと思っていた3つのキーワードが、一つの線としてつながったのです。

JICAボランティアの経験は、今までの人生、そしてこれからの人生にきっとつながっていくはず。迷っている人がいたら、勇気を出して、その一歩を踏み出してほしいと思います。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で

※休暇などの扱いで、所属先に身分を残したままJICAボランティアに参加できる制度。